

学校法人永原学園  
さんこう  
児童クラブ通信  
 令和7年9月発行  
 — 第6号 —  
【三光幼稚園】  
 TEL:0952-31-0753  
【さんこう児童クラブ携帯】  
 TEL:090-7430-1312

**考える力、想像する力**

児童クラブで1日を過ごした長い夏休みが終わりました。西九州大学の先生方と学生さんが企画して頂いた講座にも参加して、多様な体験もさせて頂きました。また、防災訓練を3種類3日行い、その中で昨今多発する犯罪のお話をして、日頃からどんなことに気を付けたらいいのか？や、もしもの時にまずすることや命を守るためにはどうすればいいかなどを話し合いました。

参加した25人程の児童一人一人がその子なりに一生懸命考えて応えようとする姿が、幼児とは異なり、想像力も具体的に頼もしい小学生だと感じました。特に3年生は、時系列で考えることができおり、またそれを他者に分かりやすく説明しようとする姿がとても印象的でした。

おそらく、小学校の授業で得た学習習慣なのでしょう。

秋は、様々な行事が開催されたり、学習内容も一段と難しくなっていく時期です。児童クラブではホットする時間と場所を提供していきたいと思えます。

**9月の目標**

「生活習慣を整えよう！」

夏休みモードになっていた身体と心は一気に学校モードに！無理をせず、徐々に取り戻していただきたいと思います(\*^-^\*)



気候の変化に応じて、着替えの入れ替えをお願い致します！

10月までは暑い日が続くと言われていますが、秋に向けて、薄手の長袖シャツ、長ズボンに変更する等、それぞれのご家庭でご対応をお願いします。

※着替えセットを持ち帰って再度持って来ていただいても構いません。

☺ 2学期もどうぞ、よろしくお願い致します ☺

夏休みは児童クラブを1日開所する中で、児童と共に体調管理や怪我の防止に努めてまいりました。保護者の皆様には日頃から、様々なご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

4月に入所、一定期間利用の子どもクラブに慣れ、友達と一緒に過ごす時間には笑顔が見られています。2学期からも安心して楽しく過ごせるよう子どもたちと力を合わせてクラブをつくり上げていきたいと思っておりますので、引き続き、お力添えをよろしくお願い致します。

**【★交流と経験★】**

今年の夏も、西九州大学の先生や学生による活動にたくさん参加させていただきました！！楽しい中に学びもあり、貴重な体験をした子どもたちでした。



お兄ちゃんや妹と一緒に参加でしたことも嬉しかった♪



夏休みの経験を今後に生かしてほしいです★

**9月の学童児童数**

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	8月末退所者数
1年生	13	0	13	0	0
2年生	2	0	2	0	0
3年生	12	0	12	0	0
計	27	0	27	0	0

## 「子育て」から「子育て？」

西九州大学社会福祉学科講師 土井幸治

皆さん、こんにちは。神埼キャンパスで「児童家庭福祉論」「スクールソーシャルワーク」などの子どもの福祉に関わる科目を担当しています土井と申します。近年、こども基本法の施行、こども家庭庁の設置などでわかるように子どもや家庭支援に関する施策が変化しています。

子どもの問題を考える上で基盤になるものの1つに「児童の権利に関する条約（子ども権利条約）」があります。国連で1989年に採択され、日本は1994年に批准しました。かれこれ約30年が経過するなか、注目されるポイントも変わってきました。以前は、多くある子どもの権利のうち、「生きる権利」「守られる権利」「育つ権利」「参加する権利」の4つを柱としてきました。これらの権利も大切にされながらも近年では、「差別の禁止」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」「子どもの最善の利益」を4つの原則として位置づけ、重要視されています。これらの変化を読み解いていくと子どもの思いなどをふまえて考えていく、取りくんでいくという内容が強調されるようになったことがわかります。もちろん、これまでも大切にされてきたことと思いますが、改めて取り上げて大切にしていくことが示されたと言えます。

同様に「子育て」というこれまでよく見聞きしてきた言葉も「子育て」という表現が用いられるようになってきました。子育ては、子を育てるというように子どもが客体になっている表現になります。それに対して、子育ては、子が育つという子どもが主体となる表現になります。子育て支援は、子を育てる人を支援する取組であるのに対して、子育て支援は、子が育つことを支援する取組となります。この子育て支援の主体は、子どもの周りにはいる人すべてであり、社会全体になります。このような子どもに対するとらえ方の変化は、これまで子育てを行ってきた保護者や子育て支援を行ってきた関係者だけではなく、本当の意味ですべてのひとが子どもに関心を向ける機会となります。そのことで、少しでも多くの人の子どもの思いに耳が傾けられるような社会になることを願い、今後も教育・研究・社会活動に取り組んでいきたいと思っています。